

2008（平成20）年度在宅医療助成一般公募（後期） 完了報告書

【テーマ】訪問看護師に対し「在宅ケアにおける感染予防」に関する知識、技術を教育するための教育コンテンツの研究、ならびに効果的な教育方法の検討

印田 宏子<sup>1)</sup> 立花 亜紀子<sup>2)</sup> 田中 富士美<sup>3)</sup> 角田直枝<sup>4)</sup>

- 1) 千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程 看護学専攻 病態学 感染管理認定看護師
- 2) 埼玉県立小児医療センター 感染管理認定看護師
- 3) さいたま市立病院 感染管理認定看護師
- 4) 財団法人 日本訪問看護振興財団 認定看護師教育課程訪問看護学科

千葉大学大学院

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

提出日 平成21年2月25日

## <はじめに>

今回我々は財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成を受け訪問看護師のための在宅ケアにおける感染予防教育のコンテンツを研究し、そのコンテンツを用いた講習会をトライアル的に実施し、検証したのでその結果を報告する。

## <背景>

感染対策は、病院や介護施設等、集団的に医療やケアを提供する場所だけの問題ではなく、在宅医療においてもその質の確保と患者のQOL向上のために不可欠な基礎的知識であり重要な課題の一つである。特に近年、高齢化の進展、医療保健福祉体制の変革再編(療養型病床の閉鎖等)、2006年4月の診療報酬改正等により、重症度の高い患者の在宅での医療やケアが促進されている。その結果、在宅医療において従来以上に多くの医療器具を使用するケースが増加し、より高度で専門的ケアが求められるようになってきている。それに伴い、在宅医療においても医療施設同様の感染症のリスクが増大しており、在宅医療における感染対策は重要かつ喫緊の課題となっていると考えられる。

また、在宅医療中に発症する疾患は感染症が最も多く、呼吸器感染症、尿路感染症、褥瘡が約80%を占めており、在宅医療患者の死因のトップは感染症であるといわれている。このような事実もまた在宅医療における感染予防の重要性を裏付けている。

しかしながら、これまで在宅医療においては感染予防に対する取り組みは十分には行われてこなかった。また、訪問看護師に対する教育・研修では、感染予防に関する内容は決定的に不足している。高齢者介護施設の感染予防に関しては、平成17年に厚生労働科学研究「高齢者介護施設における感染管理のあり方に関する研究」が開始され、その成果から「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」が作成・発表されているが、在宅医療に焦点をあてた同様の調査研究は少なく、公表されているマニュアルも少ない。また、専門的知識の乏しいヘルパーや日々の介護を身近で行っている家族への感染予防教育はほとんど確立していない。

このような現状から、在宅医療における感染予防への取り組みは早急に行わなければならない課題と考えられる。その取り組みにあたっては、在宅医療患者を感染症の観点からのみとらえるのではなく、患者のQOLを尊重しながら、全人的に生命を維持するために重要な免疫力の向上を図ることが重要である。具体的には感染予防の観点から栄養、口腔ケア、皮膚清浄化などをトータルに捕捉し感染を予防していくことが重要である。感染対策においては伝播・交差感染を防ぐことが基本であるが、在宅医療は集団医療ではないためそのリスクは比較的低いと考えられ、そのため、在宅医療における感染対策においては感染症を発生させないための予防に重点を置く方が重要と考えられる。

## <目的>

我々は昨年度の本助成金による研究で、現状の在宅医療における感染に関する基礎的知識・技術の不足点を調査研究によって明確にした。本年度はその調査の結果明らかになった教

育の不足点にターゲットを絞り、訪問看護師の感染予防に関する知識・技術を向上させるための具体的な教育コンテンツと教育方法を検討することを研究の目的とした。短期的な問題解決のためだけでなく、最終目標として在宅ケアにおける感染予防対策に関する教育ツール(教科書やマニュアルの作成、講習会の開催)の開発をも視野に入れ研究を行い、その成果物を用いて実際に訪問看護師に対する試行的な講習会を実施することも目的とした。

#### <方法>

- ・ 昨年の調査結果を基に、在宅ケアの現場で不足し求められている感染予防対策の知識・技術を主たるケア提供者である訪問看護師を対象に教育するための具体的教育コンテンツを検討する。
- ・ 同時に、そのコンテンツを効率的に提供する方法の一つとして、昨年の調査の結果ニーズが大きかった「訪問看護師のための感染予防講習会」の開催を目指し、その有効的な開催方法をトライアル講習会にて検証する。
- ・ 試行的講習会は最低2ヶ所の異なる地域(首都圏とそれ以外の地方)で実施し、参加者からのアンケート調査により満足度や習熟度を評価し、より有効な講習会開催への検討資料とする。
- ・ 訪問看護師に対する教育のみでなく、訪問看護師がヘルパーや家族に対して適切でわかりやすい感染予防指導が行えるための教育ツールを検討する。

#### <協力者>

- ・ 研究には共同研究者(感染対策専門家)のみでなく、口腔ケア専門家、栄養管理専門家、褥瘡管理専門家、訪問看護専門家などの参画を得て、学際的な研究検討を実施する。

#### <結果>

我々が平成19年度の当財団助成を得て先行的に実施した訪問看護師の感染予防教育や知識に関する調査研究の結果に基づき、共同研究者、研究協力者とのディスカッションを重ね標準的な講習会の内容を検討した。

教育コンテンツとしては、感染予防の視点で見直す在宅ケア(うつさない・うつらないためのポイント)、防護用具の着用使用方法、訪問看護師の役割、病院と在宅の感染リスクの違い、感染と定着の違い、標準予防策の概念(手指衛生・防護用具・タイミング)、血管内留置カテーテル管理と感染予防(感染経路、血管内留置カテーテル管理のポイント、適切な防護用具の使用、一般的な管理方法、在宅の場でのカテーテル管理の環境、入浴時の注意点)、尿道留置カテーテル管理と感染予防(尿道留置カテーテルの適正使用、高機能おむつの使用や安楽尿器、感染経路、尿路感染予防対策のポイント、防護用具の使用、カテーテル固定、排泄の方法、挿入部の清潔、入浴時の注意、間欠導尿カテーテル)、口・鼻腔吸引、気管吸引(吸引時の感染予防のポイント、防護用具の使用、吸引用カテーテル管理)、在宅で問題となる主な感染症(インフルエ

ンザ、ノロウイルスによる感染性胃腸炎、疥癬)などを整理し、講習会用の資料を作成した。

また、在宅ケアの感染予防の実践のためには「感染管理、感染予防の基礎的知識(標準予防策)」「在宅ケアにおける感染予防の技術(経路別予防策)」という感染予防に直結する知識のほかに「褥瘡の管理」「口腔ケア」「栄養管理」に関する知識が必須であるとの結論にいたった。

ただし実際の講習会では限られた時間の中でこれらすべてを網羅することは出来ないことから、標準的なプログラムは①主テーマ:感染管理認定看護師を講師とした標準的な感染予防策、各種カテーテルの管理、吸引処置の管理、在宅ケアで知っておきたい主な感染症などの講義、②サブテーマ:皮膚・排泄ケア認定看護師看護師による褥瘡管理の講義、または管理栄養士による栄養管理、または歯科衛生士による口腔ケアの講義、から主テーマを必須としサブテーマを選択して構成することとした。

上記に沿って2008年6月21日に埼玉県さいたま市、8月2日に青森県八戸市、11月29日青森県弘前市で、試行的講習会を実施した。

さいたまと八戸での講習会では感染予防と褥瘡管理の2演題、弘前では感染予防と栄養管理の2演題で実施した。

それぞれの参加者数は、さいたま98名、八戸148名、弘前85名であった。

各講習会后、満足度と有用性に関する参加者からのアンケート調査を実施した。その結果、

『標準予防策』の講義に対する満足度は約70%、『経路別予防策』は約90%であった。質問紙調査によると『標準予防策』は過去に受講歴があると答えた者が、約半数あり、既習のものとして比較的満足度が低かったと考えられる。ただし、実際の標準予防策遵守率は低く、これをどのように普及させるかは今後の課題と考えられた。また、講習会形式のみでは、標準予防策の重要性や在宅での状況に応じた対策の導入に結びつかないということも示唆された。『経路別予防策』は質問紙調査でも受講希望が高く、日々の実践の中でおこる疑問に答えることで、高い満足度に繋がったと考えられた。

この研究結果は平成20年2月27、28日に開催される第24回日本環境感染学会の演題として採択されたので、成果として発表する。

今後は、今回の試行的な事業をさらに普遍的なものへと展開し、全国各地で訪問看護師のための在宅感染予防講習会を実施し、在宅ケアの質の向上に貢献することを目指したい。

## 謝辞

本研究を行うにあたり、ご協力いただきました訪問看護師・管理栄養士・皮膚排泄ケア認定看護師・感染管理認定看護師の皆様へ感謝申し上げます。本研究を助成いただいた財団法人在宅医療助成勇美記念財団に感謝申し上げます。